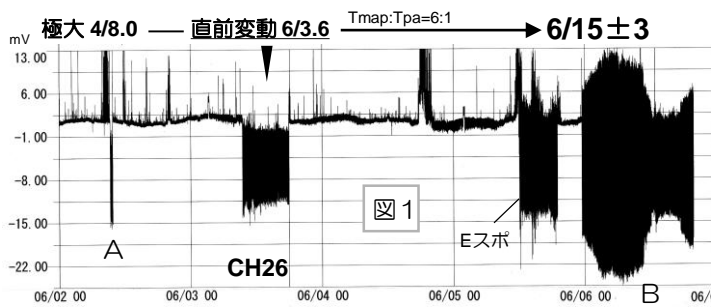


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail または FAX で配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 Stage-34 CH26 直前変動 6/2.4→6/3.6 に修正 Stage-34が示す時期を6/15±3 に修正 しかし6/6.0からCH26 に変動出現開始→ Stage-35 の初現である可能性が高い



Stage-35 の場合は 7/2±3 を示す可能性

【CH26】 Tmap:Tpa=6.1 極大 4/8.0 --- 直前変動 6/3.6 → 6/15±3
【A5】 Tmap:Tpp=3.9:1 極大 4/3.5 --- 静穏化 5/26.4 → 6/13±3
Tmap:Tpa=6:1 極大 4/3.5 --- 直前変動 6/1.4 → 6/13±3

Stage-34 が示す明確な変動関係・Stage-34 が最終Stageである場合は地震発生日推定根拠変動関係。次Stage-35へ移行の場合は Stage-35 の極大日を示す可能性

◆6/2の情報で、6/2.4 にハヶ岳の CH26 に極大変動と同じ基線から下向きの変動（図1の A 変動）が、4月中旬以降初めて観測されたため、6/2.4 の変動を直前変動の可能性と考え、極大 4/8.0 との関係から 6/13±3 対応地震発生の可能性と報告致しました。しかし、図1のとおり、CH26 に翌日 6/3.6 を中心に A 変動を超える継続時間で下向きの特異変動が観測されました。明らかに A の変動より顕著であるため、6/3.6 を直前変動の可能性と再認識します。図2には変動関係で Stage-34 が示す時期を示す明確な変動関係を記しました。Stage-34 は 6/15±3 を示すこととなります。

仮定 6/6.0 から出現のCH26特異変動が Stage-35 初現の場合 極大 6/15であると 7/2±3 を示す

◆6/6の0時頃から図1のB変動のとおり、CH26に前述の直前変動とは異なる顕著な基線に対し上下の特異変動が出現し継続しています。Eスポではありません。地震発生まで継続する可能性もありますが、この時期に、このような変動は経験則に合いません。従って6/6.0からのCH26の変動は、次の Stage-35 の変動初現と認識するのが適当と考えます。仮に Stage-34 が示す 6/15±3 に極大が観測された場合は、Tfap:Tmap=20:13 経験則から、7/2±3 を示すこととなります。CH26の変動が断続的でも継続した場合は、Stage-35 初現の可能性が高くなります。CH26の変動は他に全観測点で同期変動はなく、CH26のみの変動です。このため、Stage-35 に移行した場合は、Stage35 が示す時期が、18年続くこととなる No1778 の対応地震発生時期である可能性が高いと考えます。

- 推定領域：図3の実線領域内＝大枠推定領域
斜線領域＝火山近傍で可能性が考えやすい推定領域

- 推定規模：
主震＋余震型の場合＝M8.0±0.3（M7.7～M8.0の可能性高い）
または複合地震活動＝複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で合計で110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性有（例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等）

※地震発生に伴い震源に近い火山で弱い噴火の可能性も考えられる
地震発生に伴い震源に近い火山が必ず噴火すると断定することは困難ですが、弱い噴火活動が生じる可能性は否定できません。過去例では2018年1/23の草津白根山が変動極大から34日で小規模噴火しており、過去例の中では最長。今回は6/28に噴火型変動極大を観測。

- 推定時期：
Stage-35へ移行の場合：7/2±3（6/15極大の場合 極大観測後修正）
Stage-34が最終 Stage である場合：6/15±2（考えにくく否定的）
CH26変動が6/13以前に終息した場合は再考し、続報させていただきます

- 推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前 8時30分±2時間 or 午後 6時±3時間
（複合地震では当てはまらない場合有）

※17年以上継続する観測歴上最長の変動は観測例がない初めての体験で、解析が極めて難しいため推定に誤りがある可能性は否めません。お許しください。対応地震が推定に近い内容で発生した場合でも被害が少ないことを祈ります。

県境をわかり易くするため、影響局からの検知ドーナツ円（領域推定の作図線）を消した図で表示しました。

